



千葉県のかんしょの現状と展望

千葉県農林部農産課長 大井 栄 三

1 現 状

千葉県のかんしょ生産は、かつては澱粉原料用としての栽培が盛んであり、昭和24年には作付面積 31,300ha と最高の作付けを示しました。昭和25年にはかんしょ統制が解除され、かんしょの動向は澱粉状況に左右されるようになり、価格安定のため昭和28年に農産物価格安定法が制定され、昭和34年には収穫量は実に709,700 t に達しました。(表1)

ところが、昭和38年に粗糖の輸入自由化が行われるようになると低価格の外国産澱粉原料(コーンスターチ)の輸入が増大し、国内産澱粉の競争力も低下しました。それに伴い本県のかんしょ作付面積も減少し、昭和49年には5,550ha になりました。

しかし、その後従来の澱粉原料用から食用への作付け転換が図られ、価格の堅調に支えられた食用かんしょは、県北部台地を中心に増加し、昭和59年産では6,900ha になり、現在食用の割合は9割近くを占めています。(図1)

主要品種は表2に示したとおりで、「金時」「高系14号」「ベニコマチ」等の食用品種です。なお現在最も作付の多い「金時」については、連作障害等により若干減少してきています。

食用はその収穫時期により早掘り(収穫7

月下旬～8月下旬)、中間掘り(収穫9月上旬～9月下旬)、普通掘り(収穫10月上旬～11月上旬)の3つの作型に分けられ(表3)、その作付割合は、早掘り2割、中間掘り1割、普通掘り7割程度と考えられます。早掘りの品種としては「高系14号」、中間掘りでは「ベニコマチ」「高系14号」、普通掘りでは「金時」を主体として作付されています。

なお、千葉県では昭和59年8月に「ベニアズマ」という品種を、県奨励品種に採用しましたが(表4)、この品種は早期肥大性があり、食味良好、障害(立枯症状、かいよう症状)に強い等の特性があり、本県でも食用の早掘り品種として有望視されています。

出荷状況を見てみると、本県の場合東京中央卸売市場へ出荷しているのは、食用の約2割ですが、東京中央卸売市場に占めている本県産の割合は、昭和58年で59%であり、食用かんしょの主産県となっています。また価格についても、若干の変動を伴いながらも上昇傾向を示しており(図2)、市場での評価も高いものとなっています。

2 展 望

千葉県のかんしょ栽培は食用を中心にして安定していますが、近年食用かんしょ栽培地帯において、立枯症状等の障害の発生が見られ、

表1 千葉県甘しょの年次別作付面積等

(資料：千葉県農林水産統計年報)

年次	作付面積 (ha)	10a当たり 収量(kg)	収 穫 量 (t)	10a当たり 労働時間	備 考
20	25,805	1,474	383,500		
21	23,965	1,695	409,500		
22	25,700	1,253	324,570		
23	30,700	1,680	517,300		・「いも祭り」の実施
24	31,300	1,670	522,600		・作付面積 最高の31,000ha
25	27,400	1,860	510,000		・甘しょ統制解除
26	25,400	1,870	474,400		-
27	25,500	1,980	504,100		
28	26,700	1,840	490,400		・農産物価格安定法(法律第225号)の制定
29	25,800	1,890	486,700		・農業用ビニールの出現
30	26,100	2,360	615,700		
31	27,400	2,340	642,200		
32	24,000	2,310	552,900		・「高系14号」県奨励品種に採用
33	24,800	2,290	569,200		
34	26,700	2,660	709,700		キュアリング庫を利用した催芽育苗法の開始(県農試)
35	21,900	2,630	576,700	142.8	「タマユタカ」県奨励品種に採用
36	21,300	2,670	568,600	143.7	
37	21,300	2,480	528,500	140.0	「ツクモアカ」県奨励品種に採用
38	21,600	2,820	609,700	146.7	・粗糖の輸入自由化
39	21,100	2,660	561,400	140.6	
40	16,100	2,510	404,100	138.2	
41	15,100	2,630	397,100	141.4	
42	12,400	2,640	327,400	142.0	
43	10,400	2,690	279,800	133.4	
44	7,150	2,600	185,900	119.9	
45	5,920	2,420	143,300	112.1	
46	6,290	2,410	151,600	115.6	
47	6,200	2,540	157,500	135.1	
48	5,920	2,320	137,300	122.7	
49	5,550	2,250	124,900	127.6	
50	5,790	2,150	124,500	111.2	「ベニコマチ」県奨励品種に採用
51	6,360	2,120	134,800	99.1	
52	6,260	2,380	149,000	119.0	
53	6,190	2,150	133,100	109.2	
54	6,210	2,370	147,200	108.8	
55	6,740	2,200	148,300	97.5	
56	6,820	2,340	159,600	102.6	
57	6,770	2,020	136,800	78.3	
58	6,820	2,030	138,400	74.4	
59	6,900	2,200	151,800		「ベニアズマ」県奨励品種に採用
60					

表 4 千葉県甘しし奨励品種特性表 (資料: 県農業試験場)

品 種 名	来 歴 (育成場所) (育成年)	採 用 年 度	地 上 部										地 下 部										適 地	栽 培 適 性	概 評						
			萌 芽 性 質	草 性	頂 葉 色	葉 色	葉 脈 色 (葉)	葉 形	葉 柄・毛 茸	葉 の 大 小	茎 の 細 太	茎 の 長 短	掘 取 難 易	結 節 位 置	諸 の 長 短	諸 の 強 弱	い も の 形 状	い も の 大 小	形 状 の 整 否	条 溝 有 無	皮 色	肉 色			蒸 し も 肉 質	食 の 肉 味	う ん の 有 無	収 量 の 多 少	貯 蔵 難 易	切 干 歩 合	で ん 粉 歩 合
ベニコマ	高系14号 × コガネセンガン (農事試験) (昭50年)	昭50	良	中	緑	緑	淡紫	紫	中	易太	短	易	浅狭	中	中	紡錘	中	中	整	無	紫赤	黄	粉	上	無	中	易	34.8	23.0	比較的多収 食味極良	黒斑病ネコ コブ線虫 つる割病弱
アマス	関東85号 × コガネセンガン (農研センタ) (一昭59年)	昭59	良	蔓	緑	緑	淡紫	紫	少	中	長	易	浅狭	中	中	長鍾	中	中	整	無	濃紫赤	黄	粉	上	無	中	中	34.4	22.7	育苗容易 早期肥大 性あり 良質・多 収かい つに強	病害虫に やや弱い や貯蔵難
高系14号	ナンシーホール × シヤム (高知県農試) (昭20年)	昭32	不良	不	緑	緑	緑	緑	中	中	中	易	浅狭	短	弱	紡錘	中	中	整	無	紫赤	黄白	中	上	無	中	中	31.1	21.5	外觀良 堀りの場 合特に食 味良	育苗難 黒斑病ネ マト一 ダ弱
農林1号	元七 × 福 (千葉県農試) (昭17年)	昭17	良	蔓	淡褐	淡緑	極淡	淡	中	中	長	易	浅狭	中	強	下膨紡錘	中	中	整	無	赤褐	淡黄	粉	上	無	中	多	33.0	22.1	育苗容易 黒斑病強 貯蔵容易	つるぼけ 易ネマト 一ダ弱
マユタカ	関東33号 × 関東11号 (農事試験) (昭35年)	昭35	良	蔓	濃緑	濃緑	濃緑	濃	中	太	中	易	浅狭	短	強	短紡	大	大	整	無	黄白	黄	中	中	無	多	多	34.9	21.5	育苗多 収でん粉 歩留り高 黒斑病弱	いも着き 浅く、首 が強い 機械堀 適原料用
沖縄 100号	七潮 × 福州 (沖縄県農試) (昭9年)	昭11	中	蔓	黄緑	黄緑	極淡	淡	少	中	太	中	浅狭	短	弱	塊形	大	大	否	中	淡紅	淡黄	粘	中	下	無	極多	31.3	17.4	育苗多 収栽培 容易	黒斑病弱 貯蔵難

※耕種概要: 普通栽培

千葉県産甘しょの現状と展望

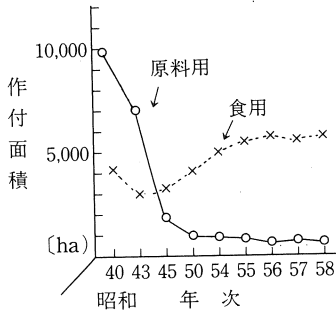


図1 甘しょ用途別(食用・原料用)作付面積
(資料：県農産課)

表2 甘しょ品種別作付面積
(資料：県農産課) (昭和58年産)

品 種 名	作付面積 (ha)	割合 (%)
金 時	2,052	30.1
高 系 14 号	1,944	28.5
ベ ニ コ マ チ	1,398	20.4
ゴガネセンガン	563	8.3
タ マ ユ タ カ	189	2.7
農 林 1 号	162	2.4
沖 縄 100 号	68	1.0
ツ ク モ ア カ	40	0.6
そ の 他	404	6.0
計	6,820	100.0

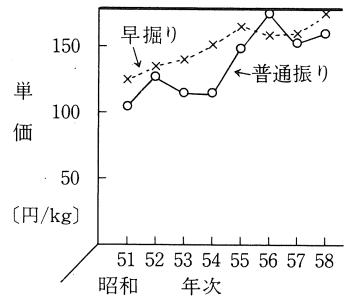


図2 食用甘しょ年次別価格推移〔東京中央卸売市場における千葉県産甘しょの単価〕(資料：青果物流通年報)

表3 甘しょ作型別栽培暦

月・旬	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1
作 型	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下
早 掘 り		種いも伏込み	植付け					収穫				
中 間 掘 り		種いも伏込み	植付け					収穫				
普 通 掘 り		種いも伏込み	植付け						収穫			貯蔵出荷

現在試験研究機関により、原因の究明を図っています。

また現地においても県単補助事業により、試験は、モデル展示ほを設置し、対策の推進を図るとともに、栽培農家を対象に研修会等を開催しているところです。また先ほど述べましたように、立枯症状に強い「ベニアズマ」という品種を県奨励品種に採用しましたので、これらの対策と合わせて障害の回避を進めています。

また、これらの障害は地力の低下も大きな要因であるので、麦等の導入による合理的輪作体系の確立や、堆肥の施用による地力増強を図っていくことが重要であり、今後これらの点についても今まで以上に推進していくことにより、品質の良い甘しょの生産を維持していくことができると考えられます。

また、販売体制については、現在品種及び出荷時期等の違いから、出荷組合ごとに出荷規格が異なるため、販売の有利性が損われて

いる点が見うけられます。規格の統一については、むづかしい点がありますが、今後とも食用甘しょの主産地として発展していくためには、規格の統一化を進めるとともに、他産地及び市場動向に対応した調整共販を実施していくことが必要になってくると思われるところです。

澱粉原料用甘しょについては、作付面積が1,000 ha程度で一定していますが、今後ともキャベツ等露地野菜との輪作、及び労働配分上欠くことの出来ない作物として位置付けられるため、収量及び澱粉歩留りの向上により、作付の維持が図られるものと考えています。

以上千葉県産甘しょは、今後とも食用を中心に、栽培技術等の向上による高品質化及び販売体制の整備による販売力の向上を目指していきたいと考えています。

大井栄三氏 昭和4年1月30日生まれ。昭和24年に東京農業大学農学科を卒業し、千葉県に奉職。以来農産関係の生産振興対策に従事した後、農業改良課、農業大学校を経て昭和59年4月に農産課長となる。